新津市にもう1か校の普通高校を
多い地元高校への進学希望 市民ぐるみで誘致運動すすめよう

設立趣意書

全国的な傾向として高校への進学率は年々高まっており高校教育はすでに準義務教育化している現状です。

この状態は新津市においても同様であって、市内中学生の九八%程度が高校進学を希望しており、このうち全日制高校への進学率は昨年の場合で約八五%でした。しかし、大部分の生徒は当然のことながら地元の新津高校を希望していることが調査の結果明らかで、しかも普通科を望みながら募集定員などの関係から、やむなく普通科以外の課程や他市町にある高校への進学を余儀なくされています。

このことは、市内の中学三年生約九百名のうち、地元の新津高校普通科へはわずか二〇%しか進学していないという実状からみても判ります。

いっぽう学区内の新津、五泉、白根、中東蒲原各町村の中学三年生で新津高校普通科へ進学希望者は、二学期調べでさえ六百名を越えており、現在の募集定員三百十五名を差引いても約七学級分に相当する生徒が疎外されることになります。

ところが現在の新津高校は一学年十一学級（うち商業科被服科各二学級）計三十三学級という県下三番目のマンモス校になっており、学校用地などからみても、実質的にこれ以上の増設はむずかしい状態にあるといわれています。

従って、市内の中学生、父兄の現下高校進学問題についての悩みを解消するためには学力の向上をはかることはもちろんのことですが、中学生子弟の希望を考えるとき、絶対量普通課程の許容を拡充することなしに前記実状の解決ははかれず、どうしても市内にもう一か校、普通高校の新設を必要とするものです。

よって、この問題の解決をはかるため市民の総意を結集し、あげて運動の展開を約し、ここに関係団体等の参加のもと、新津市県立普通高校新設期成同盟会を設立するものです。

県立普通高校新設 期成同盟会が発足
PTA連合会など二十七団体で構成

市議会、市教委、校長会、PTA連合会、地区労、教育をよくする新津市民の会など関係二十七団体で設立準備を進めていた「新津市県立普通高校新設期成同盟会」が、去る十月二十三日正式に発足。即日出県して陳情するなど具体的な活動の第一歩をふみ出しました。

設立総会には、構成団体二十七の代表三十名とオブザーバー一名、および事務局側関係職員が出席、志田市長を議長に選出したあと、次のことがらについてそれぞれ（別項関連記事のとおりです）審議、決定しました。そして、今後強力に、しかも長期的に目標達成への活動を進めることになりました。

◆経過報告…今まで行われてきた高校誘致運動の経過と、期成同盟結成準備会で協議決定された構成団体の範囲、統一運動目標、運動の進め方など、およびその承認

◆設立趣意書の審議と承認

◆期成同盟会の規約審議

◆役員選出、顧問委嘱

◆事業計画の審議

◆教育をよくする新津市民の会が集めた署名簿の県提出、その他、

なお、当日は五中PTA代表からも「普通高校の新設、普通課程の増設、地元の生徒は新津の普通高校へ、私学の公費助成」などの実現を要望する校区内父兄の署名簿が志田市長に手渡されました。

期成同盟会の設立総会は10月23日に開かれました

高校新設実現まで 学級増も要望

普通高校新設期成同盟会は今後、規約にもとづいて運営されることになりますが、統一目標は結成準備会で協議、調整された①県立普通高校の新設、②普通高校新設実現までの過程で、学区内の学級増（普通課程）実現を要望していくことなどが確認されました。

なお、今後の事業計画としては、広報活動の継続強化、各種資料、情報の調査、収集、活用、対県交渉の継続、関係官庁、諸団体との連絡協調をはかっていくほか、市民集会、署名運動を行うなど、中学生の進路問題について関心と理解を深め、問題解決への機運を高めていくことになりました。

身障者スポーツ大会の県代表に

志田順子さん
（田家2）

田家二丁目の志田順子さん（十八歳）が、先ごろ全国身体障害者スポーツ大会の県代表の一員に選ばれました。

この大会は、十一月二・三日の両日、茨城県水戸市で開かれるもので、志田さんは走り幅とびと卓球の選手として県民の期待をになって出場するものです。全国大会へは、当市から今回で三人目の栄誉。みんなで力いっぱい声援してやりましょう。

大杉さんと佐藤さん 表彰受ける
年金事業に功績

大杉新三郎さん
（川口）

昭和三十四年に福祉年金をもって発足した「国民年金制度」が、今年で十五年目。これを記念して先ごろ県民会館で関係者を集め盛大に式典が行われました。

この席上、ながく国民年金事業にたずさわり、その功績が大きかったとして、当市から大杉新三郎さん（川口）が厚生大臣表彰を、佐藤種次郎さん（六郷）が県知事の感謝状をそれぞれ受けられました。大杉さんも佐藤さんも、昭和三十九年から国民年金委員として、年金制度の推進、相談業務などに献身的に尽された功績が認められたものです。

佐藤種次郎さん
（六郷）

期成同盟会 会長に志田市長を選出

普通高校新設期成同盟会の役員には、次のかたがたが選ばれました。

会長　志田　保（市長）
副会長　栗原祐一（議長）
〃　秋山利夫（教育委員長）
副会長　増山隆司（連合PTA会長）
幹事　片岡一郎（市議会総務文教委員長）
〃　吉田源七（中学校長会長）
〃　上林拾二郎（進路指導委員長）
〃　古川光三郎（区長会長）
〃　阿部　腆（商工会議所会頭）
幹事　石井博（教育をよくする新津市民の会事務局長）

※後日連合PTAからの推せんで中学校PTAの進路指導部代表一名が幹事に追加される見込みです。

また、期成同盟会の顧問として、次のかたがたにご指導とご協力をお願いすることにきまりました。

顧問　佐藤　隆参議院議員
〃　権平正雄県議会議員
〃　砦田勝弥県議会議員
〃　阿部芳雄新津高校長
〃　高井賢介新津工業高校長

発足後、即日出県 高校新設を強く要望

設立総会終了後、ただちに県に陳情することをきめた「普通高校新設期成同盟会」では、午後三時すぎ、出席者全員が二台のマイクロバスに分乗、荒れ模様の天候の中を県庁にむかいました。

最初矢野県教育長に、その後柳沢副知事に個別に面会、志田市長（期成同盟会長）から、それぞれ普通高校新設と当面する学級増の必要性を陳情、同時に、先き頃「教育をよくする新津市民の会」が集めた七千名父兄の署名簿を手渡してその実現をつよく要望しました。

柳沢副知事、矢野教育長とも、その主旨は十分理解できるとしながらも、中学卒業生が次第に減っている傾向にあること、過密、過疎地域の問題、各市町村独自の要望（県下で現在十五校くらいの新設要望があるとのこと）を、隣接地域を含めた観点から検討しなければならないことなど、総合的な立場から慎重に調査、検討を進めていくむねの回答がありました。

期成同盟会では、今後市民各層のもりあがりを結集しながら、目的達成にむかって運動を継続していくことにしています。

商工業の繁栄を考える
各種団体と懇談会を計画 対話から生まれる発展に

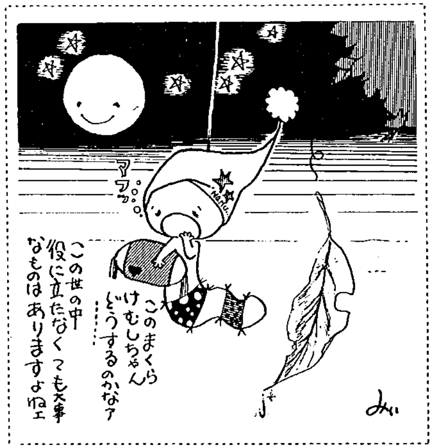
懇談会もなごやかに—市場商組のみなさん

「市内の商工業を発展させるには」「観光事業をもっと進めていくには」——新津市の繁栄を願って市では、こんど商工業にたずさわる人たちとの"対話の場"をもうけてお互いに理解・協力し合って発展を進めていくことにしました。

この懇談会は、商店街それに木工・鉄工業・青果物・時計商といった業種にわかれた団体などにも呼びかけて、市長とヒザを交え、当面するいろいろな問題をいっしょに考えていこうというものです。いま市内には、商工業に関係する団体などは四十あまりありますが、それぞれからの要請に応じて日程を組み、年内いっぱい続けていく計画で、十月中には、すでに二団体の懇談会を終わりました。

懇談会の皮切りは市場商業協同組合。十月二十四日、新津ショッピングセンター内で行われました。

「市内の市場でもっと販売力を増やしていくには……」「新津市の発展を考えるとき観光開発にも大きな期待をかけているんです」"市長対市民"の真剣に考え合う対話の場は、キメ細かにそして具体的に交換され、予定された時間も忘れ話し合いはつづきました。



新津高校　諸橋房子　（1年）